

頸神経叢

頸神経叢 (Pl. cervicalis)

解剖

I. 頸部脊髄神経 (後枝) は後頭下神経 (C₁の後枝) として項部の諸筋を支配し、大後頭神経 (C₂の後枝) は後頭部の皮膚の知覚を司どる。
 頸神経 (後枝) は項部の知覚を司どる。
 II. 頸部脊髄神経 (前枝) は頸部神経叢を構成し、頸部の皮膚、筋肉に分布する。

皮枝
 小後頭神経 (乳突枝) → 側頭乳突部皮膚へ。
 大耳介神経 (耳介枝) → 耳介、耳下腺部皮膚。
 頸皮神経 (頸部横断枝) → 前、側頸部皮膚。
 鎖骨上神経 → 鎖骨の上下、肩の皮膚。
筋枝
 後頸部筋、胸鎖乳突筋及び僧帽筋に (副神経と共に)、舌下神経係蹄 (頸神経ワナ Ansa cervicalis) として舌下神経と吻合して舌骨下筋群へ枝を送る。

横隔神経 (N. phrenicus) として C₄ を中心にその上下の頸神経が集り、前斜角筋の前を通り、胸腔に入り、心嚢と胸膜縦隔部の間を下行し肺門の前を通り横隔膜に到る。

臨床

1. 頸部後頭神経痛 (Cervico-occipital neuralgia): 上頸部の外傷、感染、心因性緊張、脊椎症、腫瘍などによる。

2. 横隔膜麻痺: C₄より上の頸髄障害、側頸部、胸部縦隔の病変でみられる。
 3. 頸部強直: 頸部病変、後頭蓋窩腫瘍、髄膜炎などによる防禦的反射である。

